

令和5年度 病虫害発生予察情報(美濃地域) 5月予報

【麦類】

赤かび病

本年の「さとのそら」の出穂は4月7日(11/7 播種：農業技術センター作物部調べ)で、平年(4/10)と比較してやや早くなりました。本病の発生には、開花期～乳熟期の気温や降雨、湿度が大きく影響します。本年は4月中旬以降、第一次伝染源となる子のう殻形成や、子のう胞子飛散に好適とされる気象条件が、本病が多発した令和3年・4年と同頻度で出現したため、ほ場内の菌密度は高いと考えられます(裏面の表参照)。各地域の品種、播種時期や環境条件の違いによって麦類の生育は異なるため、各ほ場の出穂・開花状況に応じて2回防除の実施を徹底し、その後の気象条件(登熟期の連続降雨など)に応じて追加防除を実施してください。また、収穫前に赤かび病の発生状況を把握し、健全ほ場と発病ほ場を仕分けして収穫・乾燥し、粒厚選別などによって、赤かび病汚染粒の混入を防止するよう努めてください。

○主な病虫害の発生時期及び防除時期(5月)

	病虫害名 (防除適期)	生育状況 発生量	発生時期及び防除適期						防除上の注意事項	
			1旬	2旬	3旬	4旬	5旬	6旬		
水 稲	生育(コシヒカリ)			< 田 植 え >					・田植え 5/11予定(農業技術センター)	
	イネミズゾウムシ	やや少	越冬世代成虫>						・箱施薬を実施する。	
	ヒメトビウンカ	並		<越冬世代幼虫>				<越冬世代成虫	・ほ場周辺や畦畔の雑草処理を実施する。	
	防 除 適 期		▲ (箱施薬)イネミズ・ヒメトビ						※幼虫発生最盛期は小麦ほ場内	
麦 類	生育(さとのそら)	やや早							・出穂期 4/7(平年 4/10：農業技術センター)	
	赤 か び 病	やや多～多	< 第 二 次 感 染 期 >						・開花始め及びその10日後の2回防除を徹底し	
	防 除 適 期		～▲ 赤かび病						状況に応じて追加防除を実施する。	
か き	生育(富有)	早		<開花期>					・展葉期 3/26(平年 4/5：農業技術センター)	
	岐阜西濃 中濃	やや少				<第1世代幼虫>			・幼虫発生初期の防除を徹底する。	
	ハマキムシ類	並		<越冬世代成虫>					・岐阜・西濃では、ミツバチの導入時期に注意して防除を実施する。	
	防 除 適 期		▲ ～ 岐阜・西濃							
	フジコナカイガラムシ	少	越冬世代幼虫(越冬場所からの移動) >						・昨年の多発箇所を確認して重点的に防除を実施する。	
	防 除 適 期		～ ▲							
な し	生育(幸水)	早							・開花最盛期 4/3(平年 4/10：農業技術センター)	
	黒 星 病	やや多							・初発生は平年より約1か月早い。	
	防 除 適 期		～ ▲						・同一系統薬剤の連用は避ける。	
果 樹	カメムシ類	少	越 冬 世 代 成 虫						・サクラ果実吸汁率調査など、今後の情報と発生に注意する。	
	防 除 適 期									
茶	生育(やぶきた：池田)	早	摘採期>							
	ハマキムシ類	やや多				<第1世代幼虫>			・ふ化期～若齢幼虫期の防除を徹底する。	
	防 除 適 期		▲ 岐阜・西濃							
施 設 野 菜	ト	灰色かび病	少	一部の調査ほ場では発病が認められる。曇天が続く場合は増加すると予測される。(発病果率0.14%)						・発生初期の防除を徹底する。
	マ	葉かび病	少	調査ほ場では発病は認められない。曇天が続く場合は発生すると予測される。(発病小葉率0%)						・施設内が多湿とにならないよう、湿度管理に注意する。特に夜間は多湿となりやすいため注意する。
	キ	べと病	並	一部の調査ほ場では発病が認められる。曇天が続く場合は発生が増加すると予測される。(発病葉率0.50%)						・葉かび病では、薬剤が確実に葉裏にかかるよう丁寧に散布する。
	ユ	褐斑病	多	一部の調査ほ場では発病が認められるが、発病程度は低い。罹病性品種では発生に注意する。(発病葉率0.17%)						・うどんこ病では、過度の乾燥は発生を助長するため注意する。
	ウ	うどんこ病	少	一部の調査ほ場では発病が認められる。気温上昇に伴い発生が増加すると予測される。(発病葉率0.33%)						・使用する薬剤は、RACコードを参照して同一系統の連用を避け、抵抗性・耐性の発生を回避する。
野 菜	コ	ナガ	やや多						・薬剤抵抗性がつきやすいため同一系統薬剤の連用は避ける。	
	ア	ブラムシ類	少						・775類 定植時に粒剤施用する。	
	防 除 適 期									

注1) ▲、▲～▲：防除適期

注2) 美濃地域は岐阜、西濃、中濃および東濃地域

注3) 用語の定義及び基準については「発生予察事業の調査実施基準」に準ずる

注4) 施設野菜は岐阜、西濃地域の調査結果

麦類赤かび病

表 4月の麦類赤かび病の感染好適条件の出現状況

日付	降水量 (mm)	温度(°C)			湿度(%) 平均	子のう殻 形成	子のう 胞子飛散
		平均	最高	最低			
4/1	0.0	16.8	26.2	8.5	47		
2	0.0	16.6	23.1	11.4	51		△
3	0.0	14.8	22.5	10.5	56		△
4	0.0	16.4	22.2	10.9	56		△
5	0.0	16.6	20.2	13.6	56		△
6	12.0	15.9	17.8	13.7	88	●	◎
7	38.0	16.6	18.4	13.1	87	●	◎
8	0.0	11.3	16.1	7.3	57		▲
9	0.0	12.1	18.7	5.2	37		
10	0.0	14.2	21.7	6.3	48		
11	0.0	17.1	24.2	10.2	60		△
12	0.5	15.6	19.4	9.9	62	●	▲
13	0.0	14.8	22.7	5.8	37	●	▲
14	0.0	16.6	23.4	9.9	50		
15	36.0	13.6	17.0	12.4	93	●	◎
16	0.5	16.2	20.9	12.6	57	●	◎
17	0.5	13.5	18.8	9.0	50	●	▲
18	5.5	12.8	19.1	8.3	63		▲
19	0.5	17.6	23.7	12.2	75	●	◎
20	0.0	20.8	28.2	14.2	66	●	◎
21	0.0	20.8	28.6	13.5	57		△
22	0.0	15.7	22.7	10.4	26		△
23	0.0	15.4	23.0	8.3	31		
24	0.0	14.1	17.8	10.8	27		△
25	4.5	11.9	14.5	8.2	57		▲
26	66.0	14.0	18.3	11.2	77	●	◎

* 岐阜市アメダス地点データを基に作成

1) 子のう殻形成好適日

[●] : 降雨直後(当日および翌日)かつ日平均13°C以上であった日

2) 子のう胞子飛散

[◎] : 濡れ条件と温度条件の両方を満たした日

[▲] : 湿度と濡れ条件のみを満たした日

[△] : 温度条件のみを満たした日

※ 濡れ条件 : 降雨直後(当日および翌日)または湿度80%

※ 温度条件 : 最高温度15°C以上かつ最低気温10°C以上

本病は、主に穂で発病します。麦稈または稲の刈り株などで越冬した菌糸、分生胞子や子のう胞子が一次伝染源となります。春に濡れ条件と温度条件を満たすと胞子の飛散が始まり、風などで麦類に運ばれます。

麦類の出穂から乳熟期は穂の抵抗力が弱く、感染好適条件が続くと、菌は穎の気孔などから侵入して小穂を侵します。穂にみられる桃色のカビは、分生胞子の集団です。そして、分生胞子から分散して二次伝染します。そのため、出穂後の穂への侵入阻止と二次伝染の飛散を防止することが大切です。

防除適期は開花始めとその10日後です。各地域の麦の生育状況をよく確認し、2回防除の実施を徹底してください。登熟期以降に降雨が連続するなど、二次伝染の危険性がある場合は、必要に応じて同間隔で追加防除を実施してください。その際は、耐性菌の発生を防ぐため、FRACコードを参考にして同一系統の薬剤の連用は避け、かび毒DONの生産を抑制する効果のある薬剤を使用してください。また、薬剤の使用時期(収穫前日数)に注意して収穫を実施してください。

※ DON生産抑制効果が高い薬剤(○)、効果が確認されている薬剤(△)

○ : チオファネートメチル、テブコナゾール、メトコナゾール など

△ : プロピコナゾール、クレソキシムメチル など



小麦の穂に発生した赤かび病(丸印; 令和4年 関市)

なし黒星病

本年の「幸水」の開花期は、3月の高温傾向の影響を受け、平年より7日早くなりました。本病は、前年の落葉上に形成される子のう胞子と腋花芽基部に形成される分生子が第一次伝染源となり、葉や果実に発生します。葉への感染のしやすさは「豊水」が最も高く、次いで「長十郎」や「幸水」であるとされています。果実への感染は「幸水」が際立って高く、特に開花期から幼果期、果実の生育後期は感染しやすくなります。

感染に好適な条件は、気温15~20°Cで、葉の濡れ時間が9時間以上続く多湿条件であるとされています。本年は春季が高温傾向であり、3月23~24日と開花期前後の4月6~7日が感染好適条件となったため、本病の初発生が平年と比較して約1か月早くなりました(4月第3~4半旬)。

重要な防除時期は、開花直前および満開約10日後、果実肥大期の梅雨期間と収穫後の秋期です。予防的防除を徹底し、発生が認められるほ場では同一系統薬剤の連用を避けつつ予防・治療効果の高い薬剤による防除を実施してください。また、果実肥大に影響のない程度に罹病部位を除去し、ほ場内の菌密度を下げるよう努めてください。



葉柄部に形成された胞子(丸印; 4月21日 大垣市)

農薬の安全使用に努めましょう！！

農薬の適正な使用、保管管理に努め、農薬散布する場合は、周辺に栽培されている作物のみでなく、住宅地等を含めて飛散がないよう、十分に配慮してください。

東海地方1か月予報(名古屋地方気象台 4月27日発表)

向こう1か月の気温は平年より高く、降水量は平年並から多く、日照時間は平年よりやや少ないと予想されています。天気は数日の周期で変わりますが、期間の前半は気温がかなり高くなる可能性があります。

岐阜県病害虫防除所では、この他に病害虫の詳細な調査データをホームページにて公開しています。

<https://www.pref.gifu.lg.jp/soshiki/24321/>

〒501-1152 岐阜市又丸729-1 TEL (058) 239-3161 FAX (058) 234-0767



岐阜県病害虫防除所
トップページ
QRコード